

くらし

2006年に国連が採択し、14年1月に日本でも批准された障害者権利条約を分かりやすく紹介した「えほん障害者権利条約」(汐文社)が注目されている。島根県は、県内の全小中学校・高校や公立図書館などに置く500冊の購入を決め、11月には作者の藤井克徳さん(66)＝東京都在住＝を招いたイベントを浜田市で計画する。16年4月の障害者差別解消法の施行を前に、障害者の権利に対する関心を高める狙いがある。

(増田枝里子)

絵本は、権利条約の推進に取り組む日本障害者フォーラム幹事会議長を務め、自身も視覚障害がある藤井さんが今年5月に刊行した。

条約を擬人化した「イエロリーボン君」が主人公で、条約が生まれたときの喜びに加え、障害者スポーツや手話の演劇・落語の普及など、条約が守られればどんな世界がつけられるのかを紹介。注目を集め、既に3回の増刷を重ねている。AB変形判で32頁、1620円。

島根県では、県内の障害者団体でつくる「しまね障がい者フォーラム」が6月、障害者差別禁止条例の制定を溝口善兵衛知事に要望した際に絵本をプレゼント。これをきっかけに、絵本の購入と県内図書館への配置が決まった。汐文社によると、県によるこうした取り組みは全国で初めて。

「えほん障害者権利条約」注目 島根県は全学校に配置



「えほん障害者権利条約」を紹介する藤井克徳さん(きょうされん提供)

11月には浜田で 作者招きイベント 県民に広く理解を

また、県は浜田市などとともに、作者の藤井さんが条約などについて講演する「障がい者の権利を考えるつどい」を11月15日午後1時、浜田市野原町のいわみーるで開催。

来、出雲両市と西ノ島町で開く「しまね子ども読書フェスティバル」で読み聞かせを行う。

10月から12月にかけても、安

行を前に県民、特に子ども

ちに障害に対する理解を深めてもらいたい」と、県費を投じた取り組みの狙いを説明。藤井さんは「福祉と教育が連携した画期的な取り組みだ」と歓迎し「差別や偏見の問題が解決に向かうよう願う」と期待を寄せた。

しまね障がい者フォーラムによると、昨年9月、県内の障害者621人を対象に行ったアンケートで、「社会の壁」を感じた経験で多かったのは「コミュニケーション・人間関係」(172人)、「労働、雇用」(136人)などだった。

具体的な内容としては「悪口や陰口を言われる」(知的障害者)▽「防災無線が家庭に取り付けられたが放送が聞こえない」(聴覚障害者)▽

「イベント参加を申し込んだとき、障害者理由に断られた」(視覚障害者)――といった声が寄せられた。

絵本の問い合わせはきょうされん事務局、電話03(5937)2444。